

2016年4月17日(日)

公開学習会「私たちと伊勢志摩サミット」 第2弾

## 「地方分権」って、本当にあるの？アンケート

### 今回の講座をどのようにしてお知りになりましたか？

- (1) チラシ
- (2) ホームページ・ブログ等
- (8) 知り合いから聞いて
- (1) その他

### 分かったこと、気づいたこと、もっと知りたいことなど

- ・一般には、自分の身に問題が起こってからしか考えられない人が大半だと思う。だから、教育が必要であり、学習会等を開き、問題を事前に提案し、話し合いを重ね、自分たち一人ひとりが考えるチャンスを作らなければならない。もちろん、リーダーとか、核になる人がいなければいけないのだが、これが問題ですね。
- ・上意下達、お上への従属意識、地域慣習への問題だけではない「個人」としての幸福をどうやって仲間を作って実現させていくか。この課題に各々のフィールドで取り組んでいる人がいる。(これらが)大河になるために何が必要なのか？
- ・リニアに関連する諸問題が山積していることに気づくことができました。  
原発がそうであるように、このリニアも「リニアムラ」と言われるようなものが存在して、そこに群がる人々が強引にこのプロジェクトを進めようとしているのでしょう。  
もうどうしようもないこととしてあきらめるのではなく、おかしいと思うこと、納得できないことは最後まで声を上げ続けることが大事であると思います。
- ・南木曾でのリニアの議論、リアルタイムでこれほど議論が続いているとは、そして名古屋での関心の薄さ、その「格差」を実感しました。  
一方で、リニアが目に見えにくい問題(地下利用による環境問題)、電磁波、観光への負の影響)をはらんでいるだけに、難しい面が大きいとも分かりました。
- ・JR東海がなぜ協定書を締結できないか、その理由は？  
協議会の内容をどう広報しているか  
推進派のメリットとリスクのせめぎ合いは？  
地域文化・生活の保存？継承ではないのか？  
地域間格差、世代間格差
- ・私が以前から思っているのは地方分権ということで言うと、戦後法体系が確立されて地方自治体が許認可権を含めて、大きな力を持っています。南木曾のリニアの問題では、県はどれほどの力をもっているか不明ですが、沖縄の例を出すまでもなく、知事が「ノー」と表明すれば事態は大きく変わります。行政がどこを向いていくかが大きいと思います。

- ・私は知識がなく、今日この機会を得るまでリニアにこのような問題が隠れていたことを知らなかった。何事も知ることからだと思うと同時に、メディアによって「重要性」が勝手に選択されているように感じた。この学習会ではリニア推進派の意見を聞くことができなかったので、私はリニアのメリットが分からなかった。考えるメリットを知るとともに、分かりやすく比較してデメリットのほうが大きいことを示す必要があると思った。

妻籠宿というところがあることを知り、魅力的に思ったので、行ってみたいなと感じた。

- ・リニアという中央からの巨大プロジェクトに対して地域で動きを作っている方たちの声が聞けて良かったです。
- ・リニア新幹線計画を止めたいと思っている人たちが横に手をつなぎ、必要だと思っている人たちに意見を言い、対等な関係で本当に必要かどうか議論する場は作れないのだろうか。
- ・住民がリニアをきっかけに自分たちの権利に気づいて欲しいと思いました。これをチャンスにして地方分権とは何か？どんな力なのかに気づき、住民仲間と地域を支える力になりたい。
- ・自分の地域、暮らしを自分達に関わり考えることで、より良くすることができる、それが実際、自分の暮らしに反映されるという小さな経験を積み重ねること、そんな人を増やしていくことが地方自治につながるのではないかと。考える市民を日常レベルで増やすこと、自治、地域、システム、仕組みは、お上にお任せだった。  
「国策に対して地方が声を上げるシステムがあるのに使ってこなかった」  
地域間格差は私たち一人ひとりの価値観が作り出しているものでもある…。
- ・「意識の都市化」、（松瀬さんのお母さんとのエピソードから）世代間の意識格差というキーワードが残りました。

市民の伊勢志摩サミットでは、いくつかのテーマを設け、地域からの政策提言を行います。今回の学習会は「地域間格差」について、政策提言作成への参考になればと企画しました。本日の学習会、また、政策提言に関してご要望、ご提案等があればお聞かせください。

- ・地域の沿革（歴史）、そして人の営みを知ることの大切さ
- ・お上←→一般市民、一方通行でなく双方に分かりやすく伝え、話し合うシステムを作る。
- ・（市民の伊勢志摩サミットで）東海地方の課題である「航空宇宙特区」が課題にあがっていないのが不思議。
- ・「日本の」地域間格差は明治以来の中央による地方のサンダツ（簞奪）政策であり、これがいよいよ最終局面に向かっている。
- ・この国の経済はもう行き詰っていて、高度経済成長を追い求めていた頃の発想では打開できないことは明白なのに、国を動かしている中枢の指導者は相変わらずかつての夢を追い求めて突き進んでいます。その一方、そうした状態に気づいて新しい価値観に基づいて生活の拠点を地方に移す若い世代が増えているようです。この傾向はこれからも続くのではないかと。そうあってほしいと期待しています。

- 東京から見て名古屋は「地方」といわれる。長野や岐阜、三重からは「名古屋は地方じゃない」と言われる。地域間格差といっても、いろいろなレベルがある。そこをどう整理して前向きな議論ができるか、リニア問題の各地域の住民団体の連携（あるいは連携のなさ）が議題にならないか。
- リニア問題を通して課題がとにかくたくさんあることが分かった。その課題の中で一番問題だと言われていることは何だろう？  
住民の何%の人とその課題を共有できているのか？そして、南木曾以外のリニアが通るまちの人も同じ課題を認識し、共有できているのか？が気になりました。
- 今、私の住んでいる所は都会でもなく田舎でもなく、都市近郊であります。どんどん田んぼはなくなって、道路などに変わっています。それをそうしたくて田んぼをやめているわけではない、農業をやりたい人がいるが、それでは生きていけないということです。田舎では、ただただ、どうやって生きていくかが問題になっています。一生懸命地域おこしを進めてサポーターを作ることで、一つの「力」となれば、どうにかと思います…。
- 要望というか、提案というか、感想みたいなものですが、開発とかプロジェクトを進めていくときに第一に考慮すべきは、その地域の固有性ではないかということです。  
妻籠宿にリニアを通すのと名古屋に通すのとでは、やっぱり違うと思うので。
- いわゆる地方で、いかに生計を立てて暮らしを続けられるか。何をしあわせとするのかを見直すと同時に、地域での自然の経済の循環を考えないといけないのかなと思いました。
- 「地域間格差」を生み出しているものはなんだろう。経済の仕組み？お金もうけ？科学技術への憧れ？人間の欲望に根差しているとすると、根深い問題だ。
- 地域はそれぞれによって違う。一つ一つの地域によって大切なことは違うので、それぞれの地域が自分たちの統治の仕方を考えることのできる政策があれば…。
- 今日のような問題の影響は古くから続く、世界中で起こっている問題なので、海外での好事例なども出せるといいなと思いました。

ほか、なにかお気づきになられたことがあれば、ご自由にご記入ください。

- いろいろな立場の方のお話は参考（気づき）になります。
- 今日の問題にもなった「人間らしい暮らし」「日本の自然」を残せるよう考えるには農業政策、食糧の輸入問題、全てにつながっていく国家の問題であることをひしひしと感じました。異なる地域の人との交流学習会で生の声を聞き、考えさせられることが多くありました。
- より多くの人に考えてもらう場が必要ですね。（ただ、）コミュニティが町では希薄です。
- 地方分権と市民サミットが目的としていることには大賛成ですが、「G7諸国の首脳」に提言する前に、地方自治体に具体的な提言をし、それを実現させ東海の実情を上げたうえでG7に提言すべきではないか。急ぎ過ぎに感じます。
- 「長いものには巻かれろ」ではないが、テーマが大きくなるとなかなか市民的な関心を呼びにくい。原発ならば事故が起こってから国民的な関心事になった。テーマの仕掛け方が大事。
- はて？「地域間格差」の定義って何だろう？

- 伊勢志摩サミットに便乗せず、市民サミットができないのか、市民がどう参加していいのかわからない。
- 私は生まれも育ちも沖縄で、日本の地方自治にはずっと疑問がありました。予算の話も本当にそうだと思います。  
だから、市民の意識をいかに高めるかは真剣に話し合うべきだと思います。
- 本日は、このような会を開催していただき、ありがとうございました。
- 地域創生や町おこしは、ともすれば周辺貧乏策に陥ります。マクロの経済政策の方向性が真逆では根本的には解決できない可能性が大きい。
- 知り合いが、今日も何度か話に出ていた南木曾のトンネルを越えた側の清内路というところに住んでいます。清内路の若者や1ターンの組でもリニアの学習会を開いたりしているそうです。先日、清内路に行ってリニアが壊す影響を実感しました。1日バスツアーをやるといいなと思いました。（参加費高くなりそうですが…）